

こんにちは。  
町長です。



## ウィズコロナの時代に向けて

新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本国内では3密を避ける新しい生活様式や飲食店の営業時間の短縮、マスクの着用・手指消毒の徹底などの感染予防対策が講じられ、感染拡大もある程度抑えることができました。町民の皆様には感染予防に多くの協力をいたいでいることに感謝を申し上げる次第でございます。

ところで、この感染症の拡大により全国的に見ると仕事などのやり方も大きく変化してきております。家に居ながら仕事をするテレワーク(リモートワーク)や、パソコン上の会議(Web会議など)が普及し、今はそれが当たり前のような社会環境が整備されつつあります。

今後、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種や薬が開発されるなどして、感染拡大もおさまってくると存じます。そうした中であっても、今回普及したテレワークのような働き方はきっと社会に定着してくるものと考えます。

特に、首都圏にあるホワイトカラーの仕事の多くは、テレワークがニューノーマルになるものと思います。わざわざ通勤電車に乗って毎日会社に行かなくても仕事ができることが証明され、更に社会のデジタル化が進めば、その流れは加速化されるものと存じます。

2月下旬になりますが、町では国(観光庁)の補助事業を導入して、SNSのフォロワーを多く抱えるなど一定の選考のもと、観光地(地方)に滞在しながら働く「ワーケーション」や二地域居住誘客のためのモニターツアーを開催いたしました。

コロナ禍にありながら首都圏を中心に定員を超える多くの若い人からこのモニターツアーに申し込みがあり、関心の高さを伺うことができました。このツアーに参加された方は宿泊場所やみどりの村若者センターなどでテレワークをしたり、休みにはハイキングなどそれぞれ自分にあった過ごし方をされていました。

当町は、首都圏に位置しながら豊かな自然や祭礼、文化などに恵まれ、また、ワーケーションなどに利用できる空き公共施設なども多くあります。

恵まれた環境のもと、落ち着いた雰囲気で創造的な仕事ができ、また、仕事を離れてリフレッシュもできる場所がたくさんあれば、ワーケーションとしての適地として町を売り出すことができるものと存じます。

今後も、グローバリゼーションの世界で新たな感染症の流行がいつ来るかもしれませんし、首都直下型地震も心配される中、当町は地震、台風などの自然災害の被害も比較的少ないところです。

ウィズコロナの時代には、きっと地方が見直されるものと思います。

小鹿野町長 森 真太郎